

科学者委員会・男女共同参画分科会（第23期・第2回）議事要旨

- 1 日 時 平成27年4月10日（金）16:30～18:00
- 2 場 所 日本学術会議 第5-B会議室（5階）
- 3 出席者 井野瀬久美恵委員長、土井美和子副委員長、三成美保幹事、清水誠幹事、伊藤公雄委員、上林憲雄委員、神尾陽子委員、藤井良一委員、松尾由賀利委員、江原由美子委員、戸部博委員

【配付資料】

- 資料1 男女共同参画分科会委員名簿
- 資料2 男女共同参画分科会第1回議事要旨案
- 資料3 内閣府男女共同参画局依頼「科学者コミュニティにおける政策・方針決定過程への女性の参画を拡大する方策の審議について」関係資料
- 参考1 内閣府男女共同参画局長依頼「科学者コミュニティにおける制作・方針決定過程への女性の参画を拡大する方策の審議について」
- 参考2 報告 学術分野における男女共同参画促進のための課題と推進策

4 議 題

・今期初出席の藤井良一委員、江原由美子委員、戸部博委員より挨拶があった。

（1）内閣府からの審議依頼に対する回答への対応について

・第4次男女共同参画基本計画の骨子がほぼできている。7～8月にパブコメを実施予定。そのときに意見を提出する予定。男女共同参画は人材育成と深く関わっている。裾野を増やすだけでなく、キャリアパスを作らなければならない。上位職へのキャリアパスの明確化を強調したい。対象は、研究者だけでなく技術者も入れ、やや広くとることになるだろう。学術団体も追加してはどうかという意見が出ている。メンタリングが有効であるということは共有されている。科学的な根拠もなく情報が飛び交っており、保護者及び教員に対し、働きかけが重要。主体別の目標設定だけではなく、公表も入れるべきという意見が出ている。公募型研究事業の審査委員長も女性にするような施策を進めるべき。

・かつてアンケートを実施したところ、職に就いていない博士課程修了者が多い。子育てができなければ女性研究者や女性リーダーは育たない。両親と同居又は両親の近くに住めば子育てをしながら働くことができる。フランスではバーチャル大学があり、応募して認められると教授や准教授のポストが用意され、パートナーや両親の近くの大学に行くことができる。アメリカで

は、パートナーと一緒に応募する制度がある。一時的に資金を提供するだけでは、長続きしない。

- ・明大では、5年間は学長に所属し、その後に配置するようにしている。機能するシステムでないと難しい。社会などロングタームの問題とショートタームの問題を分けて検討しないといけない。保育所は、十分条件であって、必要条件ではない。大学に任せてもうまくいかない。
- ・専門領域によって状況は違う。例えば、土木では、炭坑には男性しか入れないのでその制限を解除しようという動きがある。臨床医学では、当直も女性がすればよいというだけ。診療医学では、能力があれば昇進できるが、多くの女性は現状に満足にしており、あえてあがろうとはしない。男性は少ないポストを取り合うので、いろいろあるのであろう。理事会に女性が一人もいなかったのが、ポジティブアクションしようということになったが、否決された。そのときは、男性だけでなく、女性も反対した。結局、長期的に何をめざしているのか、女性が入るとそれぞれの分野で何がよいのかが明確にならないと、男性は納得しないであろう。
- ・事業所は目標値を設定し、たぶん公表することになるであろう。ここにいう事業所には大学も含まれる。学協会がどうするかは我々が検討していくことになる。配偶者の異動に伴う配置換えは重要。報告書のまとめの部分（20頁以降）は活かすべき。
- ・「理工系女性人材の育成」という言葉は、適性の問題を想起させる。
- ・理工系だけでなく学術全体が問題ということを強調すべき。文系の学協会の役員も女性は少ない。
- ・学校のポストはお金がかかるが、学協会の役員に女性を登用するポジティブアクションはお金がかからないので良いアイデアだと思う。学会の若い人たちに見えるということが重要。
- ・報告書に掲載された学術データベースにおける複数姓登録の問題は重要。
- ・これまでの日本学術会議の提言や報告で重要と考えられるところを各自ピックアップして、メールで送付して欲しい。それをまとめて案を作成したい。学術会議としていえること、分野はいろいろだが全体として目指していかなければならないところ、強調したい表現や重要な点をメールでやりとりすることにする。

(2) その他

- ・次回は、4月24日（金）10:00-12:00

以上